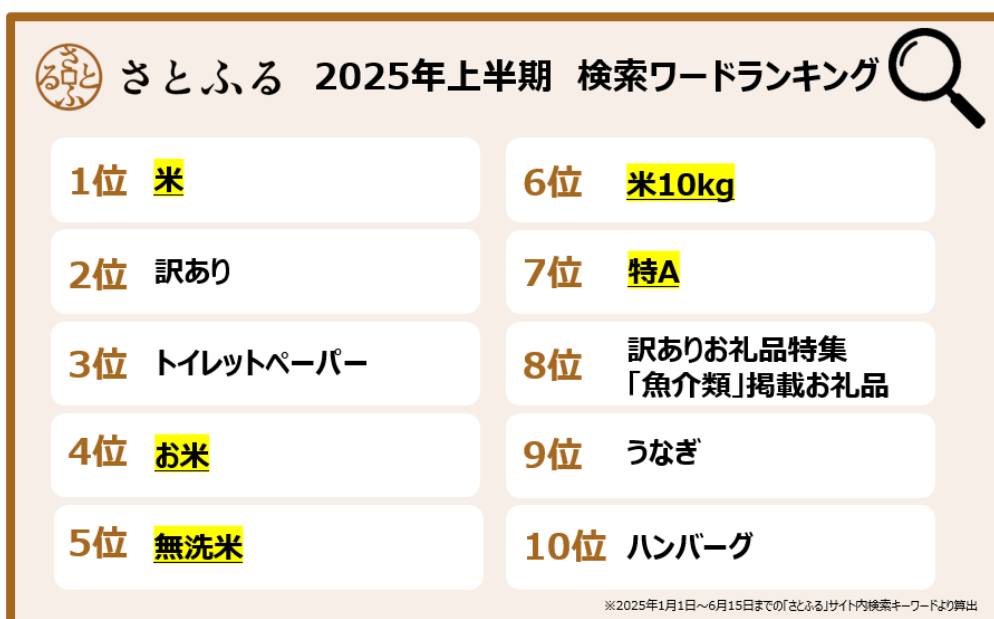


【ふるさと納税お礼品トレンド】
2025 年上半期検索キーワードランキング 1 位は米！
関連ワードも複数ランクインするなど米お礼品の人气が継続
 ～令和 7 年新米の先行受付も続々開始、自治体・お礼品提供事業者の取り組み～

ふるさと納税ポータルサイト「さとふる」(<https://www.satofull.jp/>) を運営する株式会社さとふる（本社：東京都中央区、代表取締役社長 兼 CEO：藤井 宏明）は、サイトに掲載しているふるさと納税お礼品情報をもとに、お礼品のトレンド情報をお届けします。

- ◆TOPIC 1 2025 年上半期キーワードランキング TOP10 に「米」関連ワードが複数ランクイン。
代替品などの人気も高まる
- ◆TOPIC 2 今年の「新米」お礼品登録件数・寄付件数が増加中！1 月～5 月の「米×先行受付」
お礼品の登録件数は 4 倍、寄付件数も 1.6 倍に増加！
- ◆TOPIC 3 「米」お礼品の掲載に力を入れている自治体・お礼品提供事業者の取り組みをご紹介します！

TOPIC1 2025 年上半期キーワードランキング TOP10 に「米」関連ワードが複数ランクイン。
 代替品などの人気も高まる



「さとふる」で 2025 年 1 月 1 日～6 月 15 日に検索されたキーワードに関するランキングでは、「米」に関連したキーワードが TOP10 のうち 5 件ランクインしています。TOP50 では「米」に関連したキーワードが 15 件もランクインしており、昨年の 5 件から大きく増加^{※1}しました。さらに、「米定期便」は昨年 147 位から 11 位にランクアップするなど、「米」に関連したニーズが高まっています。一方で、2025 年 4 月の「米」お礼品の寄付件数も前年同月比で 1.2 倍以上に増加しており、日常の食卓で欠かせない米を求める方が増加していることが推測されます。

そのほかにも、2025 年 4 月の「冷凍パン」の寄付件数は前年同月比で 5 倍以上、「もち麦」は約 3 倍、「パスタ」は 1.3 倍以上に増加^{※2}しており、米の代替品も人気を集めています。

※1 2024 年 1 月 1 日～2024 年 6 月 30 日と 2025 年 1 月 1 日～2025 年 6 月 15 日の「さとふる」の検索キーワード数から比較、キーワード内に「米」が入っているワードのほか「特 A」などの関連ワードも含む

※2 2024 年 4 月 1 日～2024 年 4 月 30 日と 2025 年 4 月 1 日～2025 年 4 月 30 日の寄付件数を比較

▶米代替品の人気に関する詳細資料

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001013.000025119.html>

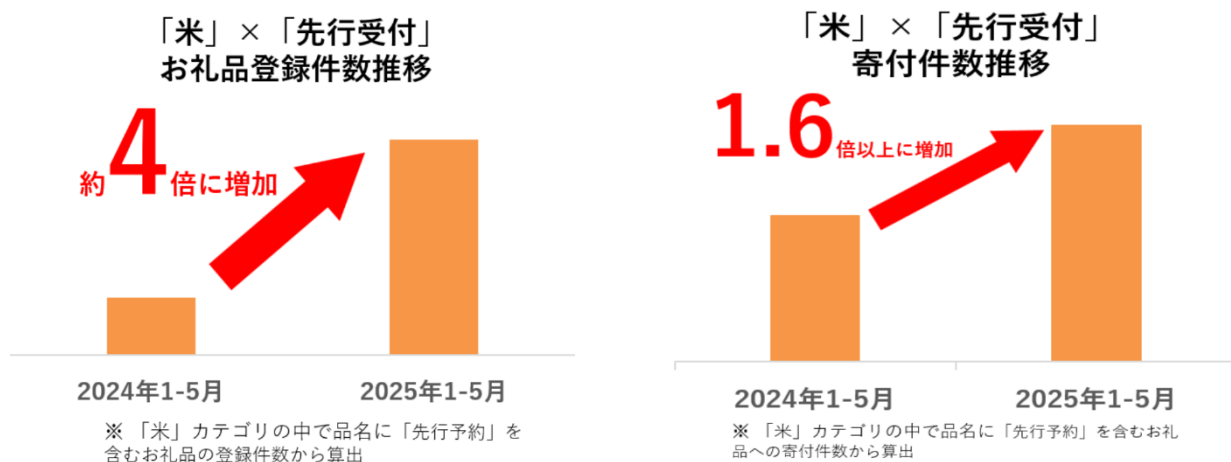
TOPIC2 今年の「新米」お礼品登録件数・寄付件数が増加中！1月～5月の 「米×先行受付」お礼品の登録件数は4倍、寄付件数も1.6倍に増加

「さとふる」の「米」カテゴリの中で「令和7年」がタイトルにつくお礼品は、2025年6月20日時点で約1,600件掲載されており、早くも今年の「新米」の予約受付が始まっています。

「さとふる」の「米」カテゴリの中で「先行受付」がタイトルにつくお礼品の2025年1月～5月の登録件数は、前年同期比で約4倍に増加しました。昨年は、6月以降に「米×先行受付」お礼品の登録件数が増加したため、今年はお礼品の登録自体が早まっていることが分かります。

また、2025年1月～5月の「米×先行受付」お礼品の寄付件数は前年同期比で1.6倍に増加しました。寄付できるお礼品数が増えたことで、今年の「新米」を受け取ることができるよう予約する寄付者が増えたと推測されます。

「先行受付」お礼品は、寄付者が年末やボーナスの時期など自分の好きなタイミングで寄付することで、収穫時期が決まっている米や果物などの旬のお礼品を収穫後に受け取ることができます。お礼品提供事業者は、先行して寄付申込みを受け付けることで栽培する作物の旬の時期以外にも安定して収入を得られるだけでなく、収穫前に販売目途が立つため安心して栽培に集中することができます。



TOPIC3 「米」お礼品の掲載に力を入れている自治体・お礼品提供事業者の取り組みをご紹介します！

「米」お礼品の寄付受付を早めることで、2か月間の寄付受付金額が昨年1年間の寄付受付総額を上回る自治体があるなど、米需要の高まりが一部自治体に大きく影響を及ぼしています。

TOPIC3 では「米」お礼品の拡充に力を入れる自治体担当者や、「米」お礼品を取り扱うお礼品提供事業者の取り組みを紹介します。

■北海道芦別市

北海道芦別市では、「米」の「先行受付」お礼品の寄付受付開始時期を例年より早めたことで、2025年4月～5月の寄付受付金額が昨年1年間の寄付受付総額を上回るなど、寄付が大きく伸びています。

寄付増加の背景や取り組みについて、北海道芦別市 企画政策課 移住定住推進係の奥村さん、芦別市のお礼品提供事業者である「株式会社芦別 RICE」の白田さんに話を聞きました。



雄大な自然が広がる芦別市の風景

自治体の声

▶ 2024年からこれまでの「米」お礼品に関する貴庁の取り組みを教えてください。

芦別市は寒暖差が大きく、おいしい農作物を育てるのに適した気候・風土です。

また、芦別市ではテレビでも紹介されさらに人気が高まった「ななつぼし」「ゆめぴりか」「ふっくりんこ」などが生産されています。

芦別市が誇る自慢の「芦別米」を、ふるさと納税を通して広く知ってもらいたいと考え、「米」のお礼品の種類を増やすべく活動しました。新規お礼品提供事業者開拓にあたっては、さとふるの営業担当も一緒に開拓を行ってくれたことで、米事業者に限らず、

市の新規お礼品提供事業者が増加しました。その結果、多くのお礼品提供事業者の方々にご協力いただき、お礼品のバリエーションも増え、寄付額の増加につながったと考えています。

市内の多くのお礼品提供事業者・農家の方のご協力により、「米」のラインアップの充実を図れたことで現在の状況があります。

▶ 在庫不足を発生させず、申し込んだ寄付者に「米」を届けるために気を付けていることはありますか？

今年度は在庫切れを起こさないように特に気を付けており、主要お礼品提供事業

者へ受注数の出荷量目安を毎月報告するなど、定期的にコミュニケーションをとることを心掛けています。

また、発送時期の管理についてはさとふるが提供しているシステムでお礼品の発送予定時期を調べることができるため、今後予測されるお礼品発送時期の問い合わせについても対応しやすい環境が整っていると感じています。

株式会社芦別 RICE（北海道芦別市お礼品提供事業者）

▶ 2024 年からこれまでの取り組みを教えてください。

昨年から米の需要増が報道などで取り上げられていたため、今年は秋に収穫予定の「新米」の先行予約受付開始時期を、例年よりも 2 か月程度早めました。これにより市場の需要の高まりに応えることができ、たくさんのお申込みをいただくことができました。

先行受付の形で大量のお礼品の寄付を受け付けると、課題となるのがお礼品の保管・発送です。システム上では、予定していた発送時期がくると予約分を一気に発送する必要があります。昨年は全部で 100 トンの米を保管しており、一回にまとめて発送する必要があるため非常に負荷が高い状況でしたが、さとふるの担当者と連携することで発送時期の調整など協力してもらうことができ、少しずつ作業を行うことができました。

自治体を含め、さとふるの担当者とこまめに連絡を取りながらサポートしてもらえるため助かっています。

▶ ふるさと納税にお礼品提供することで感じているメリットはありますか？

自分が住む芦別市に貢献できていると強く実感できることがメリットだと感じています。

【株式会社芦別 RICE のお礼品例】

【令和 7 年産先行受付】北海道芦別産農家直送ゆめぴりか 5kg

【北海道芦別市】寄付金額：15,000 円

https://www.satofull.jp/products/detail.php?product_id=1229462

2022 年に開催された、おいしい米・日本一を決める全国規模の米コンテスト「第 11 回米-1 グランプリ in らんこし」において、人気の「ななつぼし」とともに銅賞を W 受賞した「ゆめぴりか」お礼品です。パッケージは地元の芦別高等学校の生徒さんが考案したデザインを採用しており、ふるさと納税を通じて芦別市の魅力を広く全国に届けたいという気持ちが詰まっています。



■ たかすタロファーム（北海道鷹栖町お礼品提供事業者）

北海道鷹栖町で「米」お礼品などを提供する「たかすタロファーム」の平林さんは、2016 年に脱サラし北海道鷹栖町に移住した後、後継者のいない米農家に弟子入りする形で農業を始めました。現在、「さとふる」に 30 件以上のお礼品を掲載※しています。

※ 2025 年 6 月 19 日時点

▶ 2024 年からこれまでの取り組みを教えてください。

前職では製菓会社の営業を行っていたため、ほかの米農家さんが売上を伸ばすためのアドバイスなどを行っていて、周りも含めて一緒に売上を伸ばしていこうとしています。



農作業を行う平林さん

▶ ふるさと納税にお礼品提供することで感じているメリットはありますか？

ふるさと納税サイトなどに掲載されることで、「全国の方が自社の米を知ってくれるきっかけになる」というのはメリットのひとつだと思います。お礼品として食べてもらうことで、気に入って直接購入してくれる方もいて、8 年間ずっとリピート購入してくれている事例もあります。

また、自社の米を口コミなどで広めていただけることも多く、インターネット検索したときに「さとふる」などのページで詳細を確認できる導線があるのは助かっています。

▶ 昨年から続く米不足における影響、課題と感じていることはありますか？

市場の米の需要は、高くてもおいしい米を食べたい人、味よりも安さを重視する人で二極化していると感じています。そこに対して市場全体でうまく価格のコントロールをできていないという課題があり、これは直接販売でない限り、生産者側でも市場販売価格のコントロールを行うことは難しい状況です。

個人的には、世界的にも優れている日本の米をもっと国内外に届けたいと考えていますが、現状は年間 100 トンの米を作って売っていても、まだまだ足りない状況で、生産を増やすとともに自分で直接販売できる機会をもっと増やしていきたいと考えていま

す。

【たかすタロファームのお礼品例】

先行予約 令和7年産 たかすタロファームゆめぴりか【無洗米】10kg(真空パック)

【北海道鷹栖町】 寄付金額：40,000 円

https://www.satofull.jp/products/detail.php?product_id=1531737

「自分の大切な子どもに食べさせたいと思えるおいしくて安全な米を、皆さまにお届けしたい」という考えのもと、「たかすタロファーム」では魚カスから作られた有機質肥料を中心に使用し、栽培期間中の農薬の使用を必要最低限に抑えた安心・安全な米を作っています。程よい粘りと豊かな甘みが特徴で、炊き上がりは艶があり非常に美しい「ゆめぴりか」です。



■新潟県上越市

上杉謙信公ゆかりの地、新潟県上越市は2022年8月から「さとふる」などのポータルサイトの活用を開始し、2024年4月にふるさと納税の専門部署を設けました。肉や魚介、酒類、フルーツなどさまざまな地場産品を有することから、お礼品カテゴリごとに担当を決め、職員自身が生産者の情報などに関する見識を深めると同時に、うまくいった施策をほかのお礼品にも展開することで、専門性を高めながらふるさと納税に取り組んでいます。

特に「米」のお礼品開拓に力を入れ、お礼品の登録件数や在庫数を増やしたことで、2024年度の「米」の寄付受付総額は4億円以上、前年度から8倍に増加しました。寄付増加の背景や取り組みについて、新潟県上越市 総合政策部 総合政策課 ふるさと応援室の室長で「米担当」の大谷さんに話を聞きました。



上杉謙信公ゆかりの地 上越市

▶ 2024年からこれまでの「米」お礼品に関する貴庁の取り組みを教えてください。

昨年4月に専門部署が設置された際、作付面積が全国4位の米どころとして、越後上越の主力はやはりお米だと考え「米のお礼品数や在庫を増やそう」とすぐに活動を開始しました。

具体的には、すでにお礼品提供を行っているかいないかにかかわらず、地域の生産者やお礼品提供事業者は何度も足を運んで、お礼品の登録や在庫数を増やしてもらうための提案をしたり、定期便を出していただくように働きかけたりしました。最初は、「そもそもふるさと納税にお礼品を出すってどんなメリットがあるの?」や「お礼品登録ってどうすればいいの?」といった声も聞かれたのですが、一つひとつ丁寧に対応を行うことで、参加する生産者やお礼品提供事業者が増えていきました。

お礼品登録については全面的にサポートを行っており、写真撮影やサムネイル作成をしたり、時にはお礼品提供事業者に代わってお礼品登録を行ったりすることもあります。「さとふる」のお礼品登録はシステムがとてもしっかりしていて、サイト公開までのプロセスが可視化されているなど、分かりやすいので非常に助かっています。

また、さとふるの営業担当の方からもさまざまなアドバイスをいただくなど、随時コミュニケーションをとって進めています。

「米」のお礼品のラインアップや在庫を増やす活動を行った結果、昨今の米不足や価格高騰も追い風となり、「米」を求める寄付者の動きに応えることができ、寄付の増加につながりました。

▶ 米の生産者がふるさと納税にお礼品提供するメリットは何だと思いますか?

どのジャンルのお礼品にもいえることですが、ふるさと納税はお礼品提供事業者にとってコストや手間が少なく、全国の人に自社の商品を知ってもらうことができる手段です。一般的に、EC販売などを始めようとする場合、サイトの構築・掲載にかかる費用や配送費などが必要となりますが、ふるさと納税の場合、お礼品提供事業者側にそういった費用負担はありません。

また、お礼品の発送の際、自社ECなどであれば伝票を準備するなどの手間が発生しますが、例えばさとふるであれば、寄付が入った後、伝票は運送会社側が準備し集荷に来てくれるので、お礼品の梱包までを行ってあげれば良く手軽です。

昨年、上越市の「米」お礼品は「さとふる限定お礼品特集」に掲載されたことで一気に寄付が集まり、わずか1か月間で500件以上の寄付が集まったこともありました。「さとふる」のように認知度が高く、多くの寄付者が利用しているサイトにお礼品を掲載することは、生産者にとって、コストをかけずに販路の拡大を行えるメリットがあります。

また、上越市の生産者の方々は、お礼品提供を通して地域貢献をしようとしてくださる方が多く、「自分たちの商品によって、地域の魅力を知ってもらうことにつながるのだったらぜひ協力したい」と声をかけてくださいます。

▶ 在庫不足を発生させず、申込んだ寄付者に「米」を届けるために気を付けていることはありますか?

複数のふるさと納税サイトの寄付申込み件数をこまめに確認して、大きく件数が伸びているお礼品は、その都度お礼品提供事業者と連絡をとっています。こまめにお礼品提供事業者と受付状況や在庫の確認を行うことで、受付停止などの判断を早めに行うことができ、お礼品提供事業者との信頼関係にもつながっています。

生産者の方々は、農作業など商品を作るために日々活動されているので、こちらも生産に集中いただけるように最大限サポー

トを行っています。

【新潟県上越市の米お礼品例】

【令和7年産新米先行予約】「無洗米」 食味鑑定士厳選 新潟県上越市産こしひかり
5kg

【新潟県上越市】 寄付金額：17,000 円

https://www.satofull.jp/products/detail.php?product_id=1617781

米の育成されている環境や栽培方法も含め、安心・安全でおいしい米を鑑定する「米・食味鑑定士」が厳選した米です。全国有数の豪雪地帯である上越市では、ミネラルをふんだんに含んだ雪解け水が、コシヒカリの米の甘みをより一層引き立てます。無洗米で手軽に炊けるのもポイントです。

▼「定期便」お礼品はこちら

https://www.satofull.jp/products/detail.php?product_id=4067468



■ 京都府与謝野町

京都府与謝野町では、2024 年からふるさと納税お礼品の新規開拓に力を入れ、各カテゴリのお礼品数を増やすなどの取り組みを行っています。2024 年に「さとふる」に新規登録されたお礼品の件数は前年から 17 倍以上に増加し、特に「米」お礼品は前年の 66 倍以上に増加しました。その結果、与謝野町で現在寄付を受け付けているお礼品の件数は、前年の 2.5 倍以上になりました。

お礼品の登録件数が増加した背景や取り組みについて、京都府与謝野町 企画財政課の井田さんに話を聞きました。



米生産が盛んな与謝野町

▶ 2024 年からこれまでの「米」お礼品に関する貴庁の取り組みを教えてください。

与謝野町は「丹後ちりめん」の産地で知られる「織物の町」ですが、稲作を中心とした農業が盛んな地域でもあります。しかし、2024 年度当初の時点では、織物やシルク関連のお礼品が充実している一方で、まだ「米」のお礼品の種類が少なく、町としても重点品目の 1 つとして取り組み始めたばかりでした。

与謝野町を含む丹後地方で栽培されている「丹後産コシヒカリ」は、日本穀物検定協会「米の食味ランキング」で最高である特 A ランクを 12 回獲得するなど、関西の米どころとして地域の各所で米づくりが行われています。また、100%有機質肥料「京の豆っこ肥料」を使用したブランド米「京の豆っこ米」の栽培をはじめとした環境に優しい農業を推進するなど、独自の取り組みも進めてきました。そんな地域の魅力を伝えるためのお礼品として「米」は欠かせないという想いと同時に、市場で米の需要が高まっていることを報道などで見て、「米」のお礼品を増やすことが急務だと感じました。

そこで、地域内の米生産者の方々に 1 軒 1 軒お礼品提供を呼びかけていきました。特に定期便のお礼品を増やしていくことを意識してお声がけした結果、全ての「米」のお礼品に定期便お礼品のバリエーションを作ることができました。その結果、2024 年 12 月の与謝野町「米」の寄付金額は、前年比で 55 倍に増加[※]するなど効果が出ました。

お礼品を増やすにあたり、「米」以外も含めると数百件のお礼品登録が必要だったのですが、与謝野町は複数サイトの中間事業者業務をさとふるに委託しているため、お礼品登録作業が一度で完了します。各サイトにそれぞれ登録しなくてよかったのは非常に助かりました。

さとふるの営業担当の方と週に何回も電話したり、実際に与謝野町へ訪問いただいたりするなど関係性を築くことができていたので、元となるお礼品ページを 1 つ作ってしまえば、定期便の登録はさとふるに代行をお願いし、こちらは新規のお礼品登録を行うなど協力しながら進めることができたため、一気にお礼品数を増やすことができたと考えています。

※ 複数サイトの中間事業者業務を株式会社さとふるが代行する「さとふるおまとめサービス」分の寄付額において

▶ 米の生産者がふるさと納税にお礼品提供するメリットは何だと思えますか？

生産者さんにとっては、コスト負担やリスクがほとんどなく販売チャネルを増やすことができるのは大きなメリットだと考えています。

お礼品の提供を呼びかけると、そもそもふるさと納税へのお礼品提供のメリットをご存じない生産者さんも多いのですが、ふるさと納税のお礼品提供にかかる送料などのコストが自治体負担であることや、お礼品申込み後からお礼品発送までの流れなどが手軽であることを説明すると、「メリットしかない」と反応いただけることが多いです。

また、ふるさと納税サイトに掲載されることで商品認知やファンを獲得するきっかけになるので、結果的に「自社 EC の売上が伸びた」という声も聞いています。

そのほか、一般的にスーパーや複数商品が掲載されている EC サイトなどで消費者が購入する際には 10 円、20 円などの細かい価格差を比べられるかと思いますが、ふるさと納税の場合はお礼品の価格が直接的に表示されず、お礼品のストーリーやレビューなども見て寄付者が選択するため、価格以外の部分で商品のアピールをすることができるという点も、生産者にとっては安心感があると考えています。

▶ 在庫不足を発生させず、申込んだ寄付者に「米」を届けるために気を付けていることはありますか？

現在、与謝野町では今年の秋に収穫される予定の米を「先行受付」の形で掲載しています。

寄付いただいた方々に確実に届けることができるよう、予測される収穫量に対して確実に届けられる一部の量を在庫設定して受け付けています。在庫を無制限とする方法もあるとは思いますが、お礼品提供事業者の方と協力して在庫設定・管理をすることで、寄付してくださった方々に確実においしい米をお届けできるようにしています。

さとふるには在庫上限の設定機能があるので、在庫管理も負担が少なくて済むという点も助かっています。

【京都府与謝野町の米お礼品例】

【先行受付】令和 7 年新米 京都府与謝野町産コシヒカリ「京の豆っこ米」精米 5kg

【誠武農園】農家直送

【京都府与謝野町】 寄付金額：15,000 円

https://www.satofull.jp/products/detail.php?product_id=1616157

「京の豆っこ米」は地域の豆腐工場の「おから」、有機成分の高い「米ぬか」、ミネラル豊富な丹後の海の「魚のあら」をブレンドし発酵させた 100%天然素材の有機肥料を使って栽培したコシヒカリで、安心・安全でおいしいお米です。

お礼品を提供する「有限会社誠武農園」は高い生産量を維持しながらも、有機肥料を中心とした丁寧な栽培を行う農業法人です。



■株式会社さとふるについて

株式会社さとふるは、ふるさと納税（自治体への寄付）を通して地域活性化を推進しています。「さとふるの元気を“フル”にする、さとふるの魅力が“フル”に集まる ふるさと応援、さとふる納税ポータルサイト」をコンセプトに、寄付者向けに「さとふる」で寄付先の自治体やお礼品の選定、寄付の申込み、寄付金の支払いなどができるサービスを提供しています。自治体向けには寄付の募集や申込み受け付け、寄付金の収納、お礼品の在庫管理や配送など、さとふる納税の運営に必要な業務を一括代行するサービスを提供しています。また、さとふる納税を活用した地域活性化の取り組みを掲載する、地域情報サイト「さとふるこづち」（<https://www.satofull.jp/koduchi/>）を運営しています。

以上

- この報道発表資料に記載されている会社名および製品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。
- この報道発表資料に記載されている内容、製品、仕様、問い合わせ先およびその他の情報は、発表日時点のものです。これらの情報は予告なしに変更される場合があります。

【本件に関する問い合わせ先】

＜お客さまから＞

さとふるサポートセンター E-mail： ask@satofull.co.jp

Tel：0570-048-325 受付時間：午前 10 時～午後 5 時（土・日曜日、祝日、年末年始を除く）